

第4回 原子燃料分科会 議事録

1. 日 時 平成15年3月13日(木) 13:30～16:45

2. 場 所 日本電気協会4階 C, D会議室

3. 出席者(敬称略,順不同)

出席委員:石野分科会長(東海大学)古田副分科会長(原子力発電技術機構),渡邊幹事(東京電力),新井(東京電力),岡田(三菱原子燃料),窪田(ジルコプロダクツ),常松(原子燃料工業),松本(三菱マテリアル),松本(GNF-J)下重(GNF-J),藤田(日本原子力発電),本田(九州電力),柏野(四国電力)田村(中国電力),野田(中部電力),米原(北陸電力),中谷(東北電力)内田(北海道電力),高橋(関西電力)

代理委員:中村(日本原子力研究所 中村委員),藤塚(日本原燃 塩見委員),竹内(電源開発 猪原委員)

欠席委員:梶山(核燃料サイクル機構),安部田(三菱重工),寺井(東京大学),山中(大阪大学)渡辺(経済産業省原子力安全・保安院)

事務局:堀江,国則,平田,上山(日本電気協会)

4. 配付資料

資料 No.4-1 第3回 原子燃料分科会 議事録(案)

資料 No.4-2 第7回 原子力規格委員会 議事録

資料 No.4-3 第8回 原子力規格委員会 議事録(案)

資料 No.4-4 原子燃料分科会 検討会委員名簿(案)

資料 No.4-5 発電用原子燃料品質管理指針改定(案)の公衆審査意見に対する回答(案)

資料 No.4-6 原子燃料分科会 規格改廃要否検討結果案および14年度活動実績・15年度活動計画(案)

資料 No.4-7 原子燃料分科会 分科会委員名簿(案)

参考資料(1) 発電用原子燃料品質管理指針改定(案)の書面投票結果とコメント対応

参考資料(2) 原子力規格委員会 分科会規約(検討会公開伴う改正)

参考資料(3) 原子力規格委員会 規約に基づいた規格の制定に関する検討依頼文

参考資料(4) 発電用原子燃料品質管理指針 改定(案)

5. 議事

(1) 会議定足数の確認

事務局より,委員総数27名に対し本日の委員出席者(代理委員含む)数**22**名で会議開催条件(**分科会規約第10条**)の「委員総数の**2/3**(18名)以上の出席」を満たしていることの報告があった。

(2) 分科会委員の変更案紹介

- ・資料 No.4-7 に基づき、事務局より委員再任の紹介と、今後の委員再任手続（原子力規格委員会の承認・委嘱）が紹介された。

【再任委員（敬称略，順不同）】

石野分科会長，古田副分科会長，渡邊幹事，安部田委員，新井委員，猪原委員，田村委員，藤田委員，本田委員，窪田委員，常松委員，松本（邦雄）委員，松本（敏夫）委員，梶山委員

- ・石野分科会長より，空白となっていた「副会長」・「幹事」役員について，前役員の継続が指名され，前役員からも承諾があった。

副会長：古田委員 幹事：渡邊委員

(3) 前回(第3回 原子燃料分科会)議事録案の確認

- ・資料 No.4-1 に基づき，事務局より前回議事録（案）の紹介があり，以下の個所を訂正することです承された。

a. (3)項：分科会委員変更紹介

委員所属会社名（グローバルニュークリアエール・ジャパン）の「株」を社名前とする。

b. (7)項：発電用原子燃料品質指針案（修正版）の審議

指針名称「発電用原子燃料品質指針」を「発電用原子燃料品質管理指針」とする。

(4) 原子力規格委員会議事録案の紹介

- ・資料 No.4-2, (第7回原子力規格委員会議事録), No.4-3 (第8回原子力規格委員会議事録案) に基づき，事務局より前回分科会開催以降の原子力規格委員会活動内容について，以下のとおり紹介があった。

a. JEAG4204 発電用原子燃料品質管理指針（改定案）の審議内容について

（第7回原子力規格委員会 書面投票の承認済）

b. 委員表彰制度の提案について

（第9回原子力規格委員会 審議予定）

c. 分科会の英語名称について

（第7回原子力規格委員会 承認済）

d. JEAG4204 発電用原子燃料品質管理指針（改定案）の書面投票結果について

（第8回原子力規格委員会 公衆審査の承認済）

e. 規約に基づいた既存の規格制定について

（第8回原子力規格委員会 承認済）

f. 各指針における JEAG4101 「品質保証指針」に関する記載について

（第8回原子力規格委員会 承認済）

g. 分科会における規格案審議の採決方法について

（第9回原子力規格委員会 審議予定）

(5) 検討会公開に伴う、検討会の「設置」及び「委員」の審議

・資料 No.4-4 に基づき、検討会の「設置」及び「委員」の審議が行われ、全員の賛成で承認された。

なお、検討会名称は、旧名称の「原子燃料検査検討会」から「原子燃料検討会」と改めることになった。

(6) JEAG4204 発電用原子燃料品質指針改定案 公衆審査意見に対する回答案の審議

・資料 No.4-5, 参考資料(4) に基づき、古田副会長より「公衆審査意見に対する回答案について」説明がなされた。

回答案に関して以下の議論があった。 (: 質問, コメント : 回答)

回答案1項の文面で「教科書とは異なりますので・・・」は不要では。削除する。

回答案全体(1項, 2項, 3項)の文面が少々きつい感じがする。

例: 「具体的に挙げるまでもなく・・・」, 「・・・例示するまでもなく」
一部の語句・記述の訂正等を行う。

一般の人への説明(回答)としては、「何故原案のままとするか」の丁寧な説明が必要ではないか。

冒頭の前文(挨拶文)に対する儀礼文(原子力規格委員会発行)があれば、各指針の回答案は少々きつい表現でも良いのでは。

指針が分かりにくいのは、規格指針がそうなっている事を説明(回答)することも必要である。

例示を多く取り入れることはベター論であるが、曖昧となる。

本指針には、必要最低限の具体例は示している。

以上の議論の結果、回答案の方針は原案どおりとするが、一部の語句・記述の訂正等を行う条件で原子力規格委員会へ上程することが承認された。

【挙手による決議結果：出席委員全員の賛成承認】

(7) 原子燃料分科会 規格改廃要否検討結果案および14年度活動実績・15年度活動計画(案)の審議

- ・資料No.4-6に基づき、古田副会長より「原子燃料分科会 規格改廃要否検討結果案及び14年度活動実績・15年度活動計画(案)」説明がなされた。

15年度活動計画(案)に関して以下の議論があった。

英語版の作成について

英語版作成のニーズはどうか。

絶対的なニーズではないが、燃料体等の輸入時に英語版仕様書があると一助となるので、作成することが好ましい。

JEAとしては、今件のコストは気にせず、ニーズの有無で判断されることを願う。時代の趨勢として、本規格は燃料体の輸入等で、その必要性を帯びてきていることから、今後ニーズの増大が予想される。

諸外国の原子燃料に関する技術基準の調査について

調査項目の具体的な目標が必要である。

「技術基準」をベースと表現しているが、性能の規定化とのリンクが不透明である。

したが、目的・方向を明確に示すべきである。

方向性は賛成だが、15年度は調査内容を絞って、次年度に活動を展開させたらどうか。(15年度の活動計画に明記せず、16年度の活動計画としてはどうか)

将来の指針に役に立つ可能性が高い。

直ちに規格制定・改定に結びつくものではないが、指針の位置付けを検討することも有効である。(ASTMでも体系付けの検討が行われている)

本指針(JEAG4204)は、燃料製造の過程から最終処理(取り出し処理)までのトータルな品質管理をやっておく必要はないか。

輸送に関しては、技術基準がある。炉内装荷・取り出しには維持基準はない。(消耗品扱い)発電所の定期検査においては、外観検査が実施されており、また、漏えい燃料の処置も存在する。したが、事業者側からの指針制定化の必要性は少ない。但し、一般公衆の観点より考えると、あった方が好ましいと思われる。

製造メーカーとして、調査をする場合に会社として活動し易い形はどのようなものか。海外調査に関して、分科会のオーソライズがあると動き易い。

以上の議論の結果、原子燃料分科会の15年度活動計画案は原案どおりとするが、一部の語句・記述の訂正等を行う条件で原子力規格委員会へ上程することが承認された。

【挙手による決議結果：出席委員の賛成18票、保留2票】

(8) その他

- a . 石野分科会長より , 原子燃料分科会の 15 年度活動計画の検討課題について , 検討会委員の追加等があれば推薦していただき , 分科会で承認手続きを行う旨が周知された。
- b . 次回の原子力規格委員会において承認予定の委員表彰制度について , 指針改定作業に多大なる貢献を果たした渡邊分科会委員及び川崎検討会委員を推薦したい旨の提案があり , 全委員賛成のもとに了承された。
- c . 次回の分科会開催予定は , 第 9 回原子力規格委員会 (3 月 2 6 日開催) における公衆審査意見に対する回答案および規格改廃要否検討結果案・活動計画案の審議状況を踏まえ , 第 10 回原子力規格委員会開催前を前提に調整することになった。

以 上